
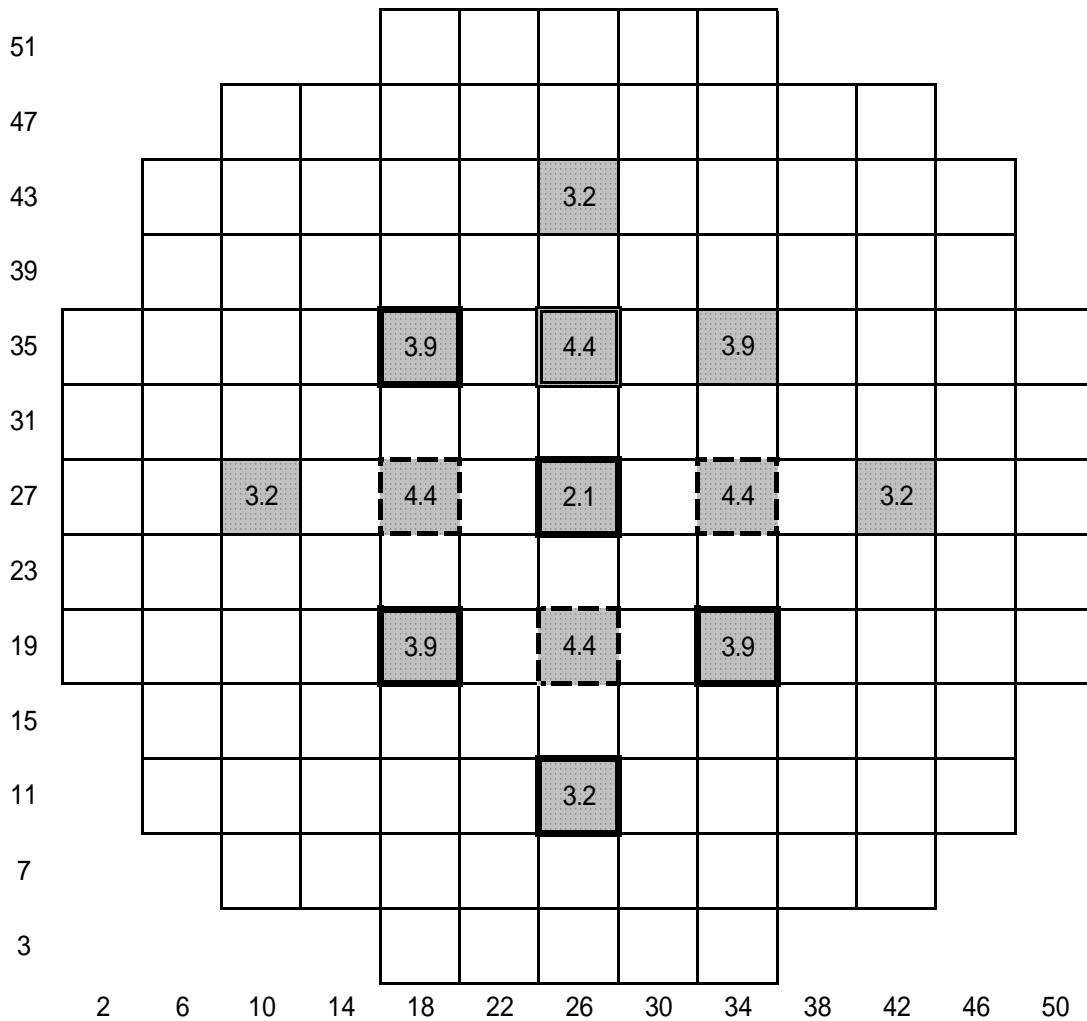




# 女川原子力発電所2号機 ハフニウム板型制御棒点検状況について


## (1) 女川2号機 ハフニウム板型制御棒の配置状況


 : ハフニウム板型制御棒配置位置  
 枠内数字: 熱中性子照射量 ( $\times 10^{21} \text{n/cm}^2$ )



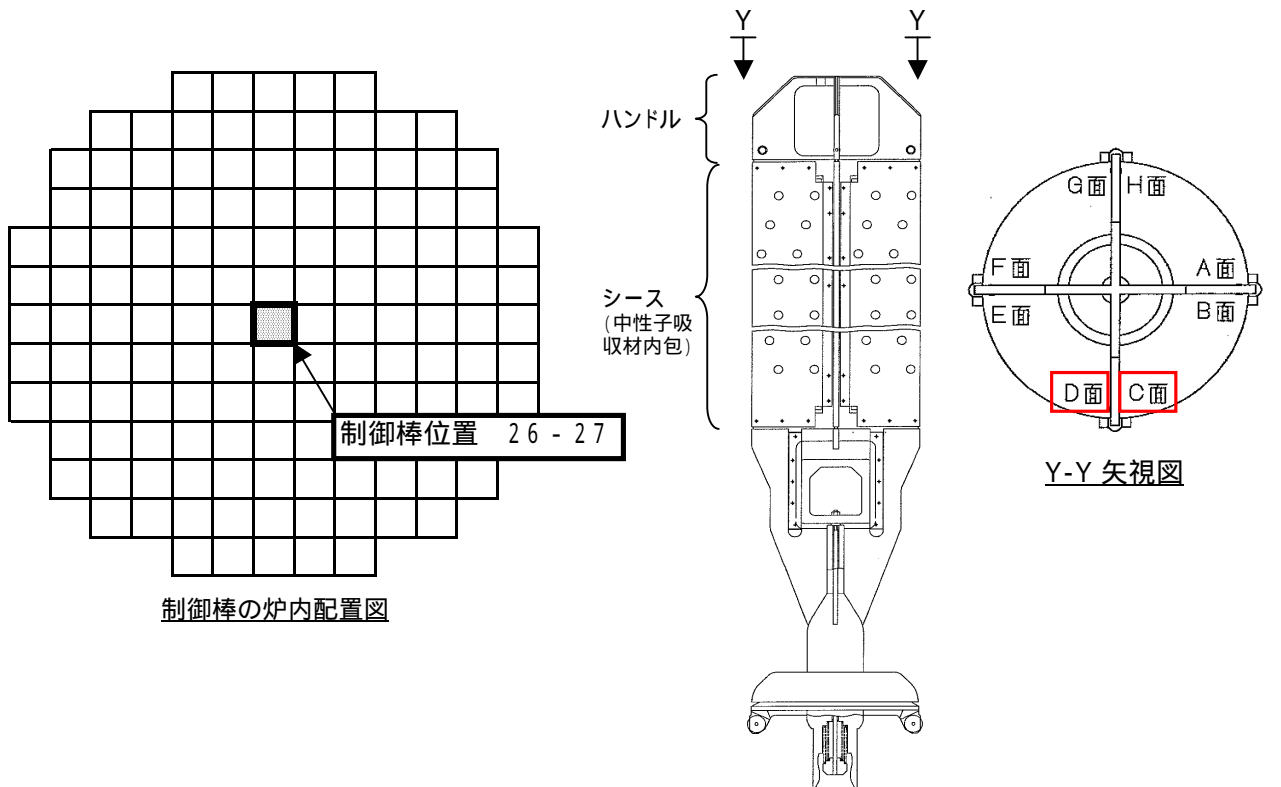
 : ハンドル部およびその近傍にひびが確認されたものの再使用する制御棒 (5本)

 : ひびがなく引き続き使用する制御棒 (4本)

 : 熱中性子照射量  $4.0 \times 10^{21} \text{n/cm}^2$  を超えハフニウム板型に取替えた制御棒 (1本)

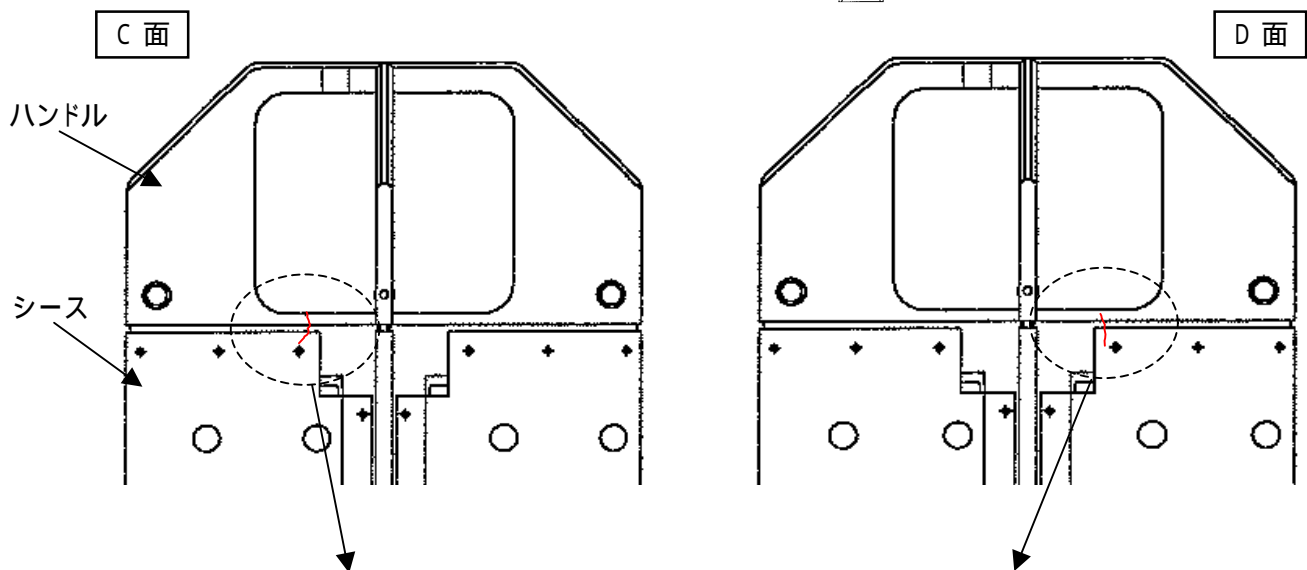
 : 熱中性子照射量  $4.0 \times 10^{21} \text{n/cm}^2$  を超えボロンカーバイト型に取替えた制御棒 (3本)

(2) 女川原子力発電所2号機 ハフニウム板型制御棒点検状況について



制御棒の炉内配置図

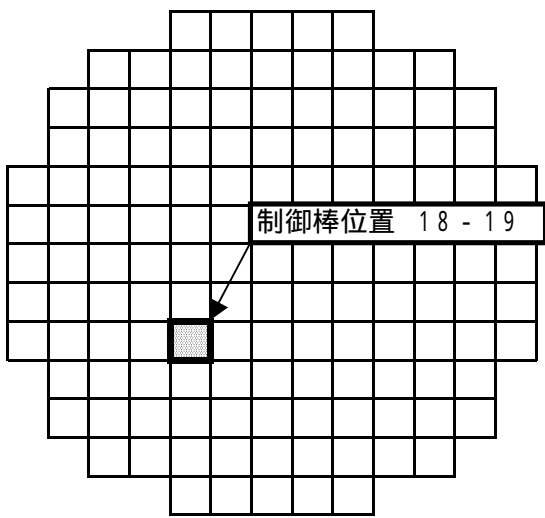
Y-Y 矢視図



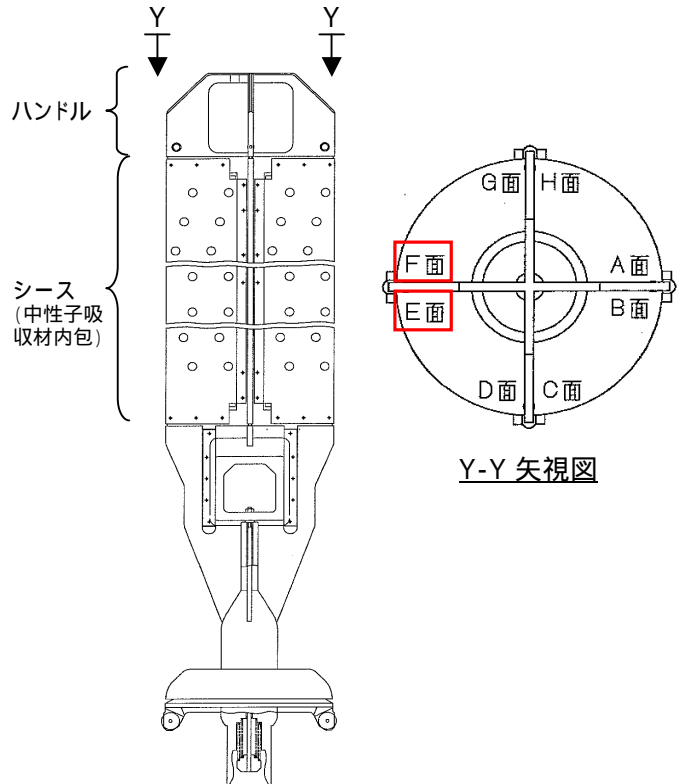
ひびの長さ：約 1.5 cm

ひびの長さ：約 1.5 cm

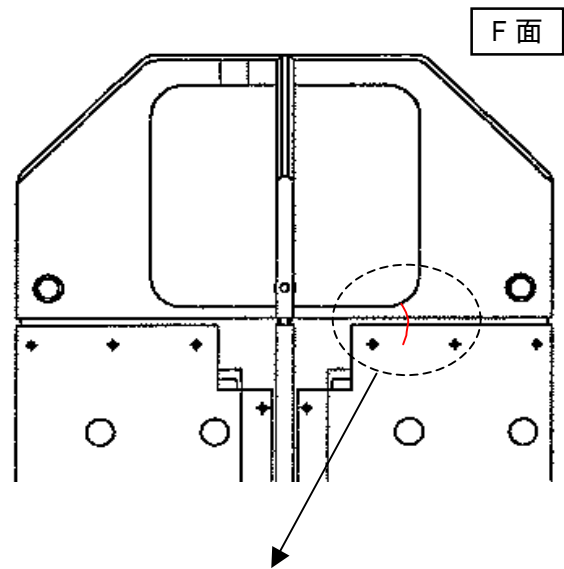
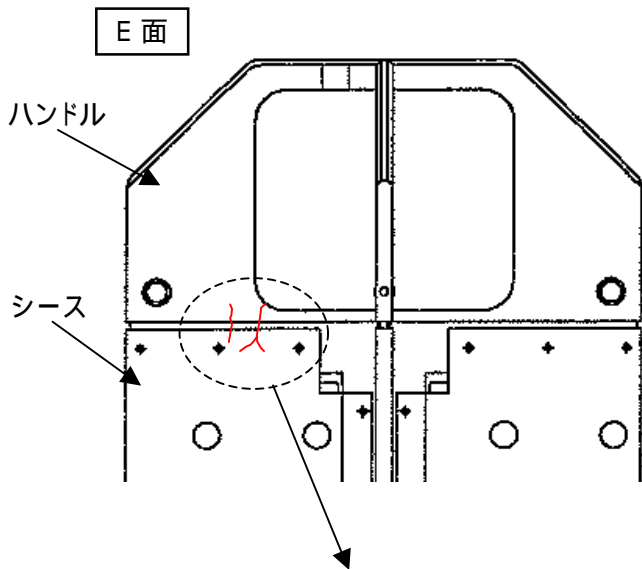
同一翼の表裏であり、それぞれのひびの形状が似ていることから、ひびはハンドルとシースの溶接部近傍を貫通している可能性がある。



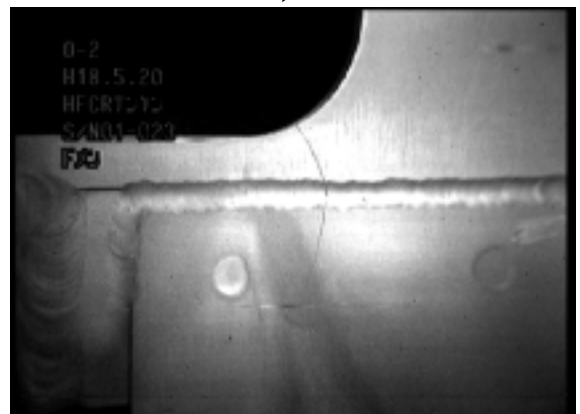
制御棒の炉内配置図



Y-Y 矢視図

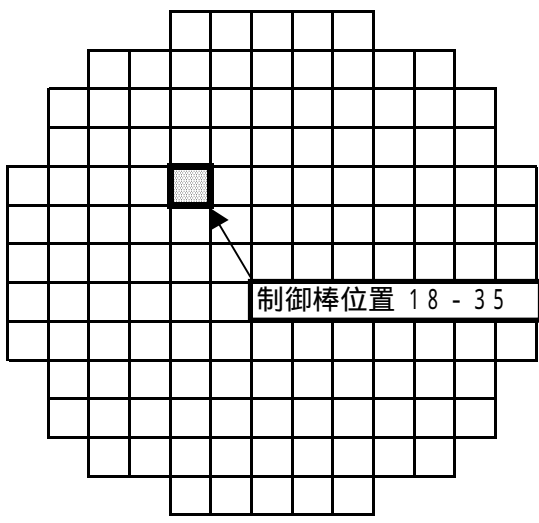


ひびの長さ : 右 約 1.5 cm  
: 左 約 1.5 cm

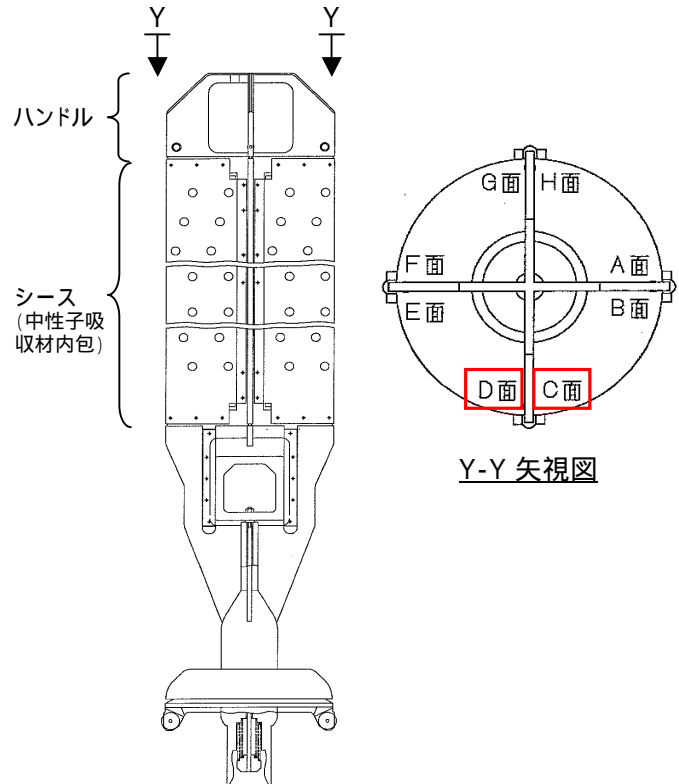


ひびの長さ : 約 2.0 cm

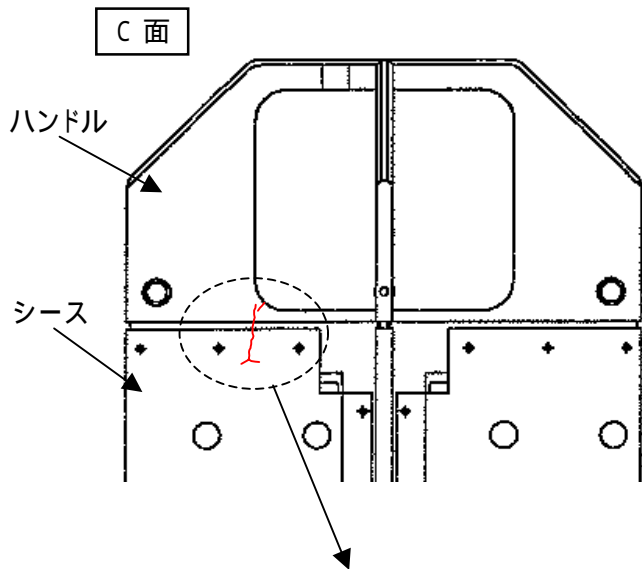
E 面右側と F 面のひびは、同一翼の表裏であり、それぞれのひびの形状が似ていることから、ハンドルとシースの溶接部近傍を貫通している可能性がある。



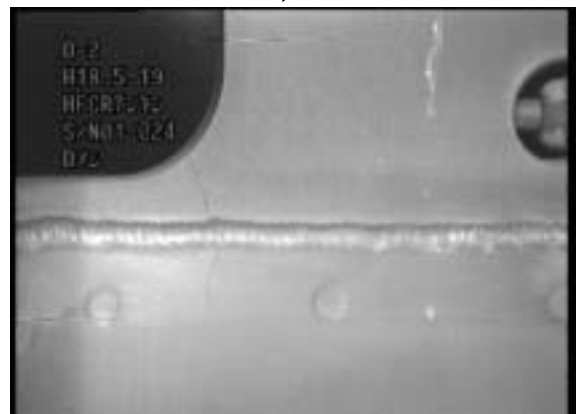
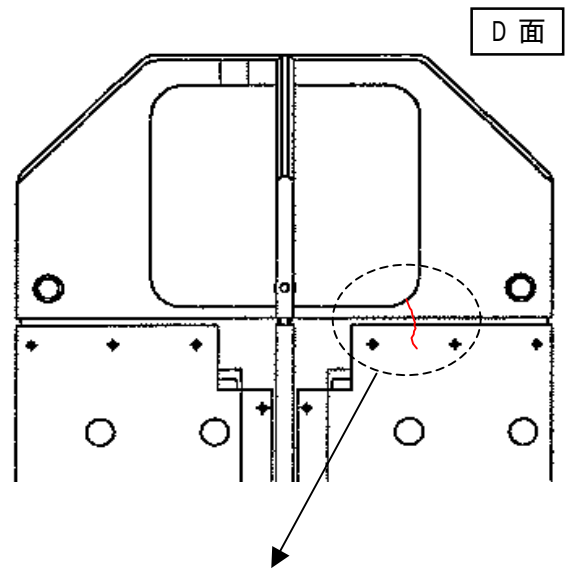
制御棒の炉内配置図



Y-Y 矢視図

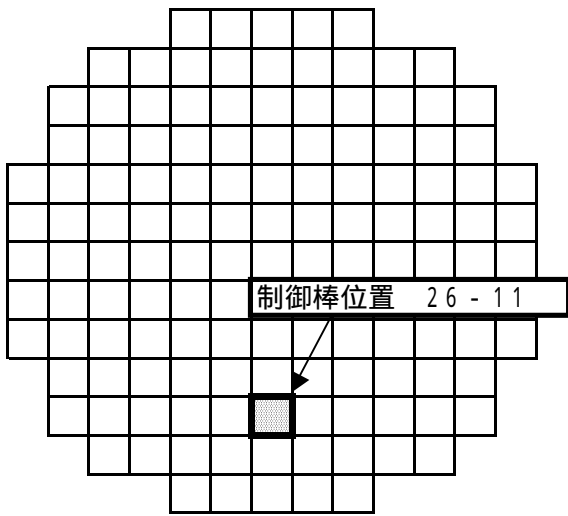


ひびの長さ：約 2.5 cm

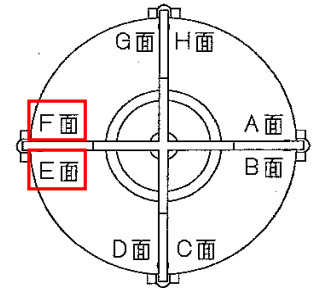
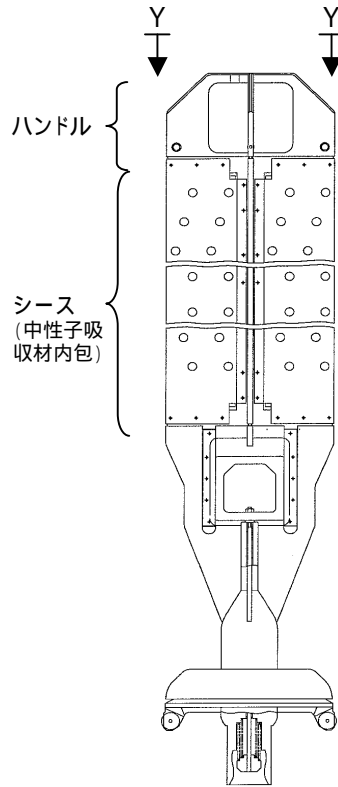


ひびの長さ：約 1.5 cm

同一翼の表裏であり、それぞれのひびの形状が似ていることから、ひびはハンドルとシースの溶接部近傍を貫通している可能性がある。

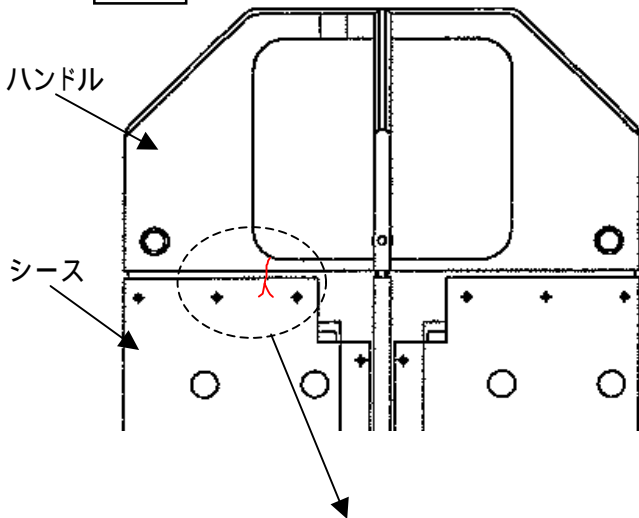


制御棒の炉内配置図

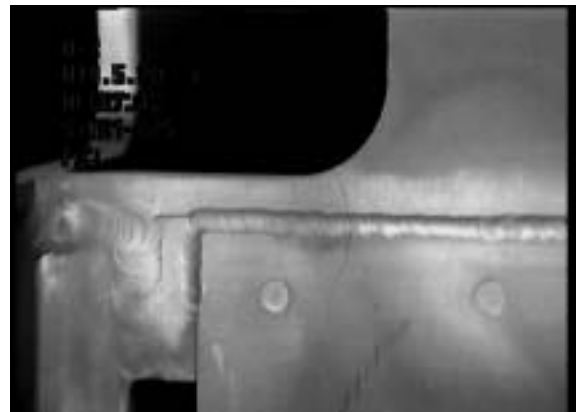
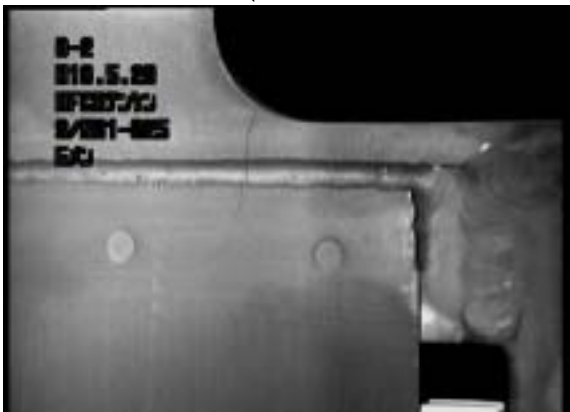
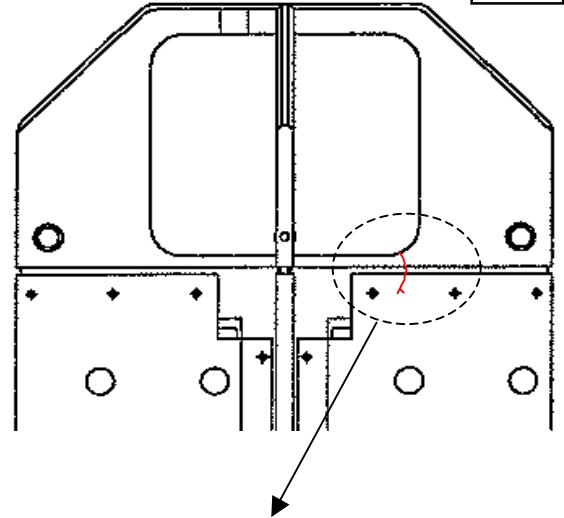


Y-Y 矢視図

E 面



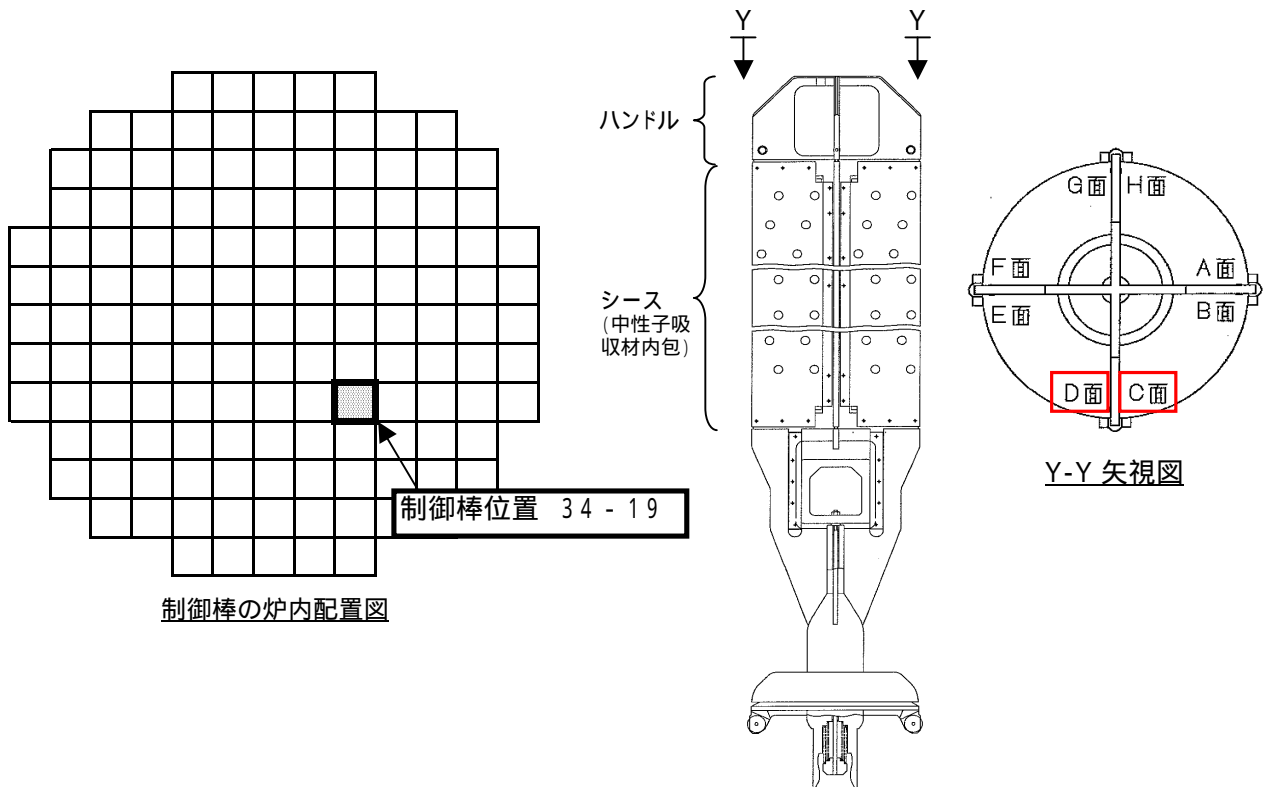
F 面



ひびの長さ：約 2.0 cm

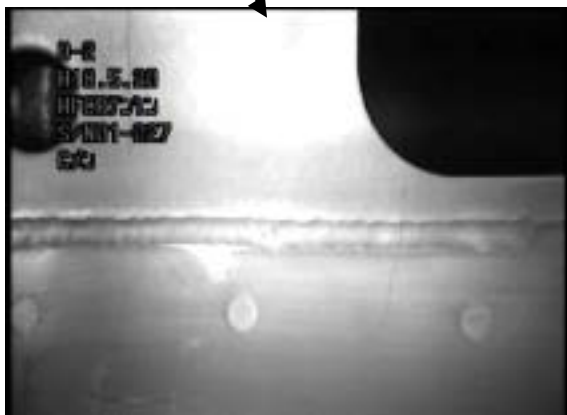
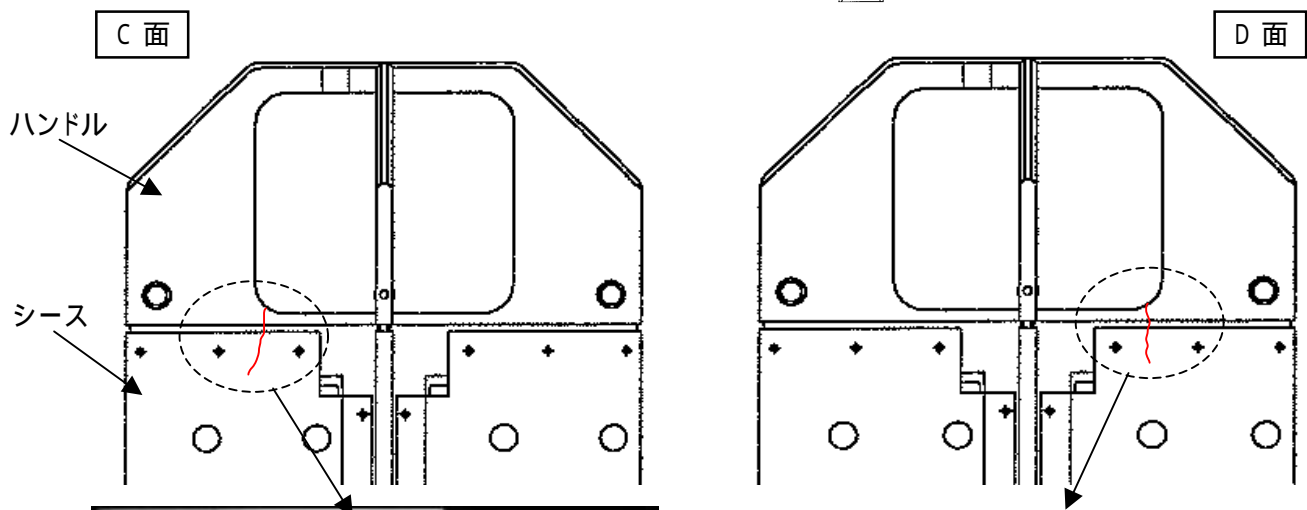
ひびの長さ：約 2.0 cm

同一翼の表裏であり、それぞれのひびの形状が似ていることから、ひびはハンドルとシースの溶接部近傍を貫通している可能性がある。



制御棒の炉内配置図

Y-Y 矢視図



ひびの長さ：約 2.0 cm

ひびの長さ：約 1.5 cm

同一翼の表裏であり，それぞれのひびの形状が似ていることから，ひびはハンドルとシースの溶接部近傍を貫通している可能性がある。